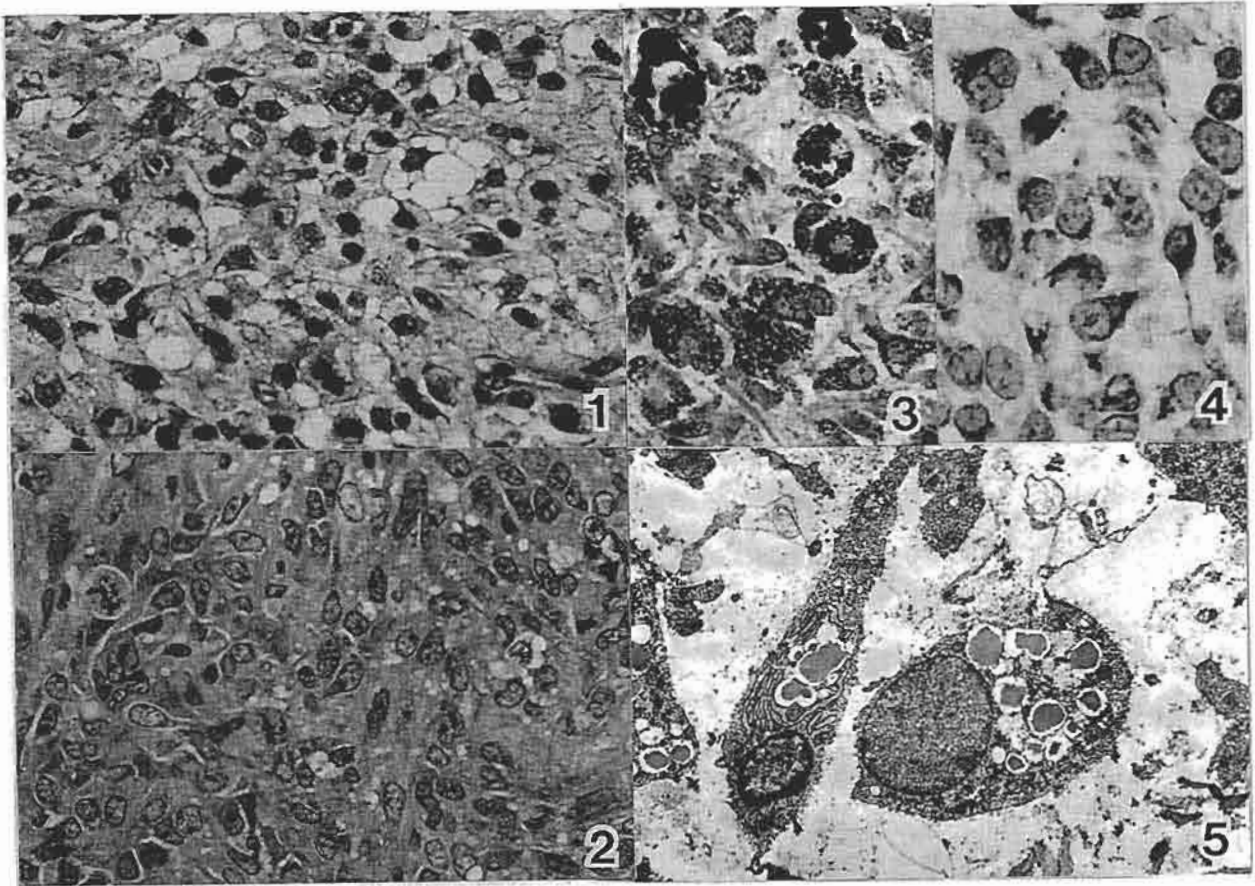


ラットの腎臓

(財)残留農薬研究所出題 第37回獣医病理学研修会標本No.687



動物：Fischer344/DuCrjラット，雄，104週齢。

臨床事項：104週間癌原性試験の供試動物で，投与98週（104週齢）時に貧血，自発運動の低下，腹部膨満，外陰部皮毛の汚れが観察されたため，試験途中で切迫殺された。

剖検所見：右側の腎臓が直径5 cmの球状腫瘤として認められ，その断面は嚢胞状ないしスポンジ様の外観を呈していた。左側の腎臓には著変は認められなかった。その他には，脾臓の腫大，肝臓の退色および表面粗造が観察された。

組織学的所見：腫瘤は表面を厚い結合織性の被膜で被われ，中心部と表層部に腫瘍細胞の増殖巣を認めたが，その他は壊死組織で占められていた。中心部の増殖巣の腫瘍細胞は，類円形，多角形又は短紡錘形で，細胞質に多数の小空胞を含み泡沫状を呈する細胞や，大型空胞を有し，くもの巣様に見える細胞が多数認められた。腫瘍細胞の核は円形でクロマチンに富んでいた（写真1，H E，×400）。表層部の増殖巣では，長円形核を有する紡錘形ないし多角形

の腫瘍細胞が充実性に増殖し，有糸分裂像が多数認められた。一部の腫瘍細胞の細胞質には大小の空胞が認められた（写真2，H E，×400）。これらの腫瘍細胞の細胞質に認められた空胞は全てオイルレッドOに陽性，オスミウム染色で黒色を呈した（写真3，オスミウム染色，×400）。また，鍍銀染色により，個々の腫瘍細胞の間に好銀線維が分布しているのが認められた。免疫染色では，腫瘍細胞はビメンチン陽性（写真4，×600），ケラチン陰性であった。電顕的に腫瘍細胞は大小様々な，限界膜のない脂肪滴を細胞質内に有し，紡錘形の腫瘍細胞では粗面小胞体も豊富に認められた（写真5，×2500）。肺では，肺動脈内に泡沫状細胞からなる転移巣が認められた。**診断**：大部分の腫瘍細胞が脂肪滴を有することと免疫染色の結果から『脂肪肉腫』と診断した。しかし，腫瘤表層部において腫瘍細胞が上皮細胞様の充実性増殖を示したところから，上皮性腫瘍ないし腎芽腫も念頭におく必要がある。今後，例数を加えて検討したい。